

絵画専攻修了論文題目一覧

日本画領域	
秋山 由佳	徐渭についての考察
荒井 直子	日本画における今に伝わる膠の使用法について
飯田 健二	動物を描く絵画における動物園という環境について ー自身の作品と相笠昌義の作品を対比する中での考察ー
奥村 彰一	桃源郷 閉ざされたユートピアの構造
佐藤 健太郎	日本の風土と信仰の関係、自然観形成の考察
中野 雄基	生き物、ねずみを通してみる自分の日本画
名取 加奈子	抽象表現からみる現代ーゾンビ的絵画の氾濫ー
原 杏奈	イメージの生まれるところ
三鑰 彩音	美の現出としての絵画ー無意識にあるものー
安田 萌音	現代における自然美と芸術美
小堀 真由子	フランス・ハレス研究とこれを踏まえた自作論
油画領域	
上原 悠里	実感するということと制作について
氏江 樹穂	内なる風景
大橋 りな	こわくない暗闇
岡崎 未来	私的線の考察
柏崎 みどり	音楽を纏う絵画
加藤 日菜子	私の絵は箱庭ではない
川内 理香子	stars in my cubic space
菊池 奈々	「江戸文化」と「大衆文化」について
清永 茉季	線表現について (電子回路基板の線が持つ有機性とその可視化)
柴田 彩乃	無用の長物
柴田 真由子	美術教育はなにをもたらすのか
菅原 彩美	多重難解表現のかがやき
菅原 遥	ツマラナイ、こと
杉谷 慧	1991年日本で生まれた私について
鈴木 夢実	日本人としての生き方について
須藤 晋平	画家の表明 煙の絵画と火の絵画
寺本 明志	人の中にある形 -Self Icon-
橋本 苑香	わたしの作品について
畑山 太志	彼らと出逢ういくつかの話
塙 康平	オリオン座が消える日
黄 之洙	デジタルゲームの世界観による日常のシュミレーション
宮入 あかね	「わからない」を出発点に

宮川 遥弥	絵を描く感触
望月 美葵	自作について ー内的世界の表現ー
八木 美智恵	「無意識」による抽象絵画の在り方
山本 春花	イメージの源泉
楊 澤辰	自身の絵画の過程および日本に関わる絵画の思考
若林 優香	描くことについて
渡部 綾美	だってかわいい論 (もん)
木村 恵	記憶とモチーフ
笹目 舞	1/730のいないいないばあ
竹下 由理	レオナルド・ダ・ヴィンチと馬

版画領域	
呉 窮	絵画による物語の伝達ー絵画への考察と私の表現
大森 みつき	『生』と『曲線』を巡って〜蟻と私〜
川合 翔子	物語と怪物の生まれるところ
古賀 玄義	リトグラフ技法を用いた版画作品の制作過程について
瓶子 愛理	異なる版素材を重ねて刷ることによって生じるカラー作品の表現の可能性
松尾 香織	魚の絵画について
横田 智美	銅版画の技法と夜の黒の表現

彫刻専攻

Sculpture Course

井口 智香子

IGUCHI, Chikako

余白の表現についての研究

Research on representation of negative space



憧憬、あの頃
Longing, those days
モルタル
Mortar
80 × 50 × 90 cm



人の感情や、考えから発想を得て作品を制作している。
それ故に、完璧に完結したものを提示するのではなく、鑑賞者が自由に想像しうる余白を残し、鑑賞者の解釈が合わさることにより完成する作品を目指している。



模造太陽
Imitation sun
モルタル
Mortar
110 × 120 × 120 cm

江原 町実

EBARA, Machimi

現代における欲求の表現

Expressing the desire in our time

主に研究題材として扱っていたものは、人間の欲望・欲求についてである。その中でも特に注目していたのは、マズローの五段階欲求説にある承認欲求と愛情欲求の二項目である。それに加え、その二つと現代社会における様々な物事との関わり方を解釈し、表現することを目的としていた。現代の人々が自身の欲望に対して「我慢」をしない、ということで成り立ってしまっている日常は、自覚症状なく麻痺し始めて

いる。そこに着目し、鑑賞者との意識を作品という物体を通じて探り合うような感覚を持って提示してきた。作品自体には、他者と関わりあった上で作者自身の経験から起こされた、数少なく間接的な「言葉」が並べられている。それらは人々が、他者に言葉で伝えることを時折歯がゆく思うように、鑑賞者それぞれが意思をもたない限り、永遠にたどり着けないように施されている。



&
ガラス、木材
Glass and wood
42 × 30 × 10 cm

神谷 かれん

KAMIYA, Karen

表現の自由

Freedom of expression



Orange chairs

パラフィンワックス, オレンジ色の油絵具

Paraffin wax and orange oil paint

700 × 450 × 600 cm

今日、芸術が様々な方法論と物質を使用し変化をしていく中で、彫刻もまたその定義や意味が変化する。新しい感覚や可能性がでてくる中、「彫刻」という枠組みの中だけで表現を追求していく行為は限界が伴うのではないかと考える。そして、本来彫刻の持つ表現の可能性に魅了された1人として、従来の枠組みを超えた彫刻表現を模索しなければならないと考える。私の作品“Orange chairs”と“The yellow log”では、私自身の生活から選出された、私的象徴性を持

つモチーフが、熱を加えると流動性を持つパラフィンワックスという素材で作られている。体を循環する温かな血液の様なこの素材を、直接オブジェからとった型に流し込み成型したこれらの作品は、私も含めた生命体の生と死の循環を示唆している。これからも、彫刻の枠組みに固定されずに自身の芸術表現を模索し、等身大の自分を表現していきたい。



The yellow log

パラフィンワックス, 黄色の油絵具

Paraffin wax and deep yellow oil paint

220 × 380 × 410 cm

金 龍

JIN Long

現代彫刻における磁性の方法論

Methodology of magnetism in modern sculpture



BEAST II
磁石、鉄
Magnet and iron
60 × 60 × 150 cm



BEAST
磁石、鉄
Magnet and iron
120 × 120 × 240 cm



本研究の目的は、「感覚」と「材料感情」を通じて旧材料の再認識という観点から、創作過程、目的、理念などを分析して「磁性」に関する理論を考察し、方法論をまとめ今後の制作方向の指針とする点にある。

BEASTシリーズは磁石と鉄粉で作った作品である。欲望は人類の原始の獣性を代表し、磁石のように、見えない力を持つ。工業は「猛獣」と似ている。人類に馴らされてきたが、人間に逆襲するかもしれない。人類は欲望の膨張に従って、工業を無限に拡張してきた。鉄粉は製造中発生する廃材であり、工業を象徴し、鉄の「本質」に近づく、人工と自然の両面性を持っている。鉄粉は磁場の誘導線に沿い、「毛皮」のようになり、鉄の冷たい・重い・硬いなどの「材料感情」を暖かい・柔らかい・かわいい・自然に変わる。人類は退化した毛皮の代わりに、工業製品で身を飾った。

小林 実央

KOBAYASHI, Mio

素材を通して考察する制作活動

Art-making as subject



dim

テラコッタ、布

Terracotta and denim fabric

サイズ可変

Variable size



今までテラコッタを使用して制作してきた。土という素材は還るところでもあるし、生まれるところでもある。土は私たちの非常に近いところにあるからこそ、感触などの生理的な気持ちよさと刷り込まれた郷土への回帰などの欲求が強く現れていく素材である。

私は粘土、陶土という素材を通すことで私自身の存在の確認作業をしているのである。



地上で舟は沈まない

On the ground the boat does not sink

テラコッタ、釉薬

Terracotta and glaze

サイズ可変

Variable size

櫻井 隆平

SAKURAI, Ryuhei

笑顔と自然について

A smile and nature



Rush

FRP、鉄、ウレタン塗料

FRP, iron and urethane paint

200 × 800 × 80 cm

私にとって笑顔は人間社会や平和の象徴である。笑顔は生物で唯一人間だけがコントロールできる表情であり、社会を円滑にするために生まれたものなのではないかと考えている。笑顔に複雑な感情があることに私は惹きつけられている。

また、私と自然は切り離せない関係である。小さな頃か

ら自然と触れ合う機会が多かった。自然の中にいる時に、自然から全ての答えがもらえるような気がして、心からの笑顔になれることが多いのである。自然素材を意図的に使用しないことで、人間と自然の関係を表現したいと考えている。

表情や色を与えるコミカルな印象とアイロニーを作品に込め、鑑賞者が自然に笑顔になることがわたしの願いである。



ゆれる

Yureru (Sway)

FRP、ウレタン塗料、LED 電球

FRP, urethane paint and LED light bulb

160 × 360 × 60 cm



田中 郁江

Ikue, Tanaka

生活することと作品をつくること

Living and making art

生活をするように作品をつくりたいと考えており、人間の持つ身の回りを豊かにする気持ちに注目しています。季節にそった行為を取り上げ、何かがとりとめなく永く続く様を表現しています。



The green woman

自作の服、映像

Handmade dress and video

(Looped)



あの人の行い

That woman's behaviour

手編みの靴、映像

Handmade shoes and video

984minutes 16 seconds

西岡 愉季子

NISHIOKA, Yukiko

その人がその人であること

The person being the person

「innocence」は、雄しべと雌しべを取り除いてガーゼで覆った造花を女性に例え、コンクリートの床と壁を男性に例えて制作した。花の周りにはあるのは抜けた乳歯である。大量生産され安価で消費されていく造花に女性の姿を重ね、ガーゼで覆う事で治癒や保護を表現した。生殖機能を取り除く事は、性からの解放や無垢を意味する。乳歯が抜ける時期を第一次性徴と捉え、思春期の少女の状態をイメージした。

Innocence
ミクストメディア
Mixed media
サイズ可変
Variable size
(撮影者：小松稔)



藤田 ありさ

FUJITA, Arisa

日常にひそむ非日常についての研究

Research on little strangers in my everyday life



#403
ミクストメディア
Mixed media
サイズ可変
Variable size

「非日常」は「日常」にひそんでいる。私たちが生活する中ですぐ身近に存在する「非日常」は、習慣、常識により隠され、私たちが意識をしてそれらを解放しなければ、なかなか気がつかないようなものであり、だからこそ時にとても面白い。それらは曖昧さを伴い、何か分からない、未知で、不思議といった要素は私たちの好奇心を駆り立て、想像の幅を広げるツールとなる。限られた固有の意味性だけではなく、さまざまな捉え方が可能となる事で、それらは何にでもなる事ができると私は考え、そこに魅力を感じるのだ。

村上 直樹

MURAKAMI, Naoki

迫力とスケール

Power and scale

私自身が巨大な動物や作品を見た時に感動する感覚を、私の作品を見た鑑賞者に感じさせる事が、作品制作の目的の一つである。作品を鑑賞者が見た際に、どのような感情を抱くのかをある程度予測して形や大きさを決める。私の作品の目的は、ほぼすべてが「迫力」というシンプルな一点に集中しているため、鑑賞者が作品に対して難しいコンセプトを抱くことはほぼ無い。

前提としてそのものが何であるのかが一目で理解でき、

作品の理解に作者の言葉が必要ではない作品を制作する事も私の中では重要な目的である。また、様々な形態を現実的ではないスケールに巨大化させて制作する事で、実生活で感じる事の無い不思議な感覚、感動を鑑賞者に与える事ができると私は考えている。

これからも私は迫力や圧迫感といったコンセプトを追い求め、制作を続けていきたい。



Keep walking

鉄

Iron

220 × 200 × 500 cm



Engram

鉄

Iron

250 × 500 × 140 cm

盛田 溪太

MORITA, Keita

生と死

リアルとノン・リアル

Life and Death

Real and non real



1/206

土、石膏、合板、ウレタン塗料

Soil, plaster, plywood and urethane paint

サイズ可変

Variable size



普段何気なく暮らしている中で、自分や親族、友人、知人以外の、意識することはあまりない不特定多数の人々の「死」に目を向けたことはあるだろうか。たとえ意識したとしてもそれは一時な感情に過ぎないのではないだろうか。私は普段、日常生活を送っている中でリアルな「死ぬことへの恐怖」を感じることはあまりない。しかし、日々何処かの誰かが亡くなっているのは明らかだ。言うまでもなく「死」は絶対に避けられない事象であり、唯一生者に平等に与えられた存在。そして「死」があるからこそ「生」が存在する。「生」と「死」はただ存在するという事実があるのみで、そこに我々の考えや希望は通用しない。そしてそれらは極めてシンプルな問題だからこそ難解である。死は人類にとって乗り越えることのできない絶対的不動の壁なのだ。



Monolith

土、石膏、顔料

Soil, plaster and pigment

180 × 180 × 180 cm